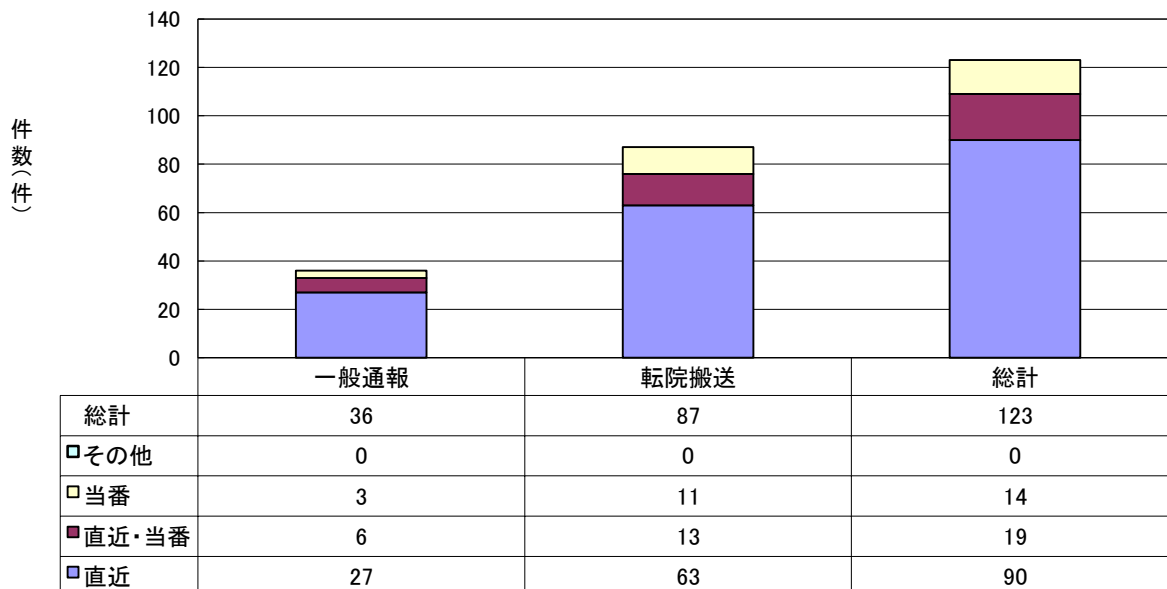


東京都母体救命搬送システムによる搬送事例の状況

平成26年4月1日から平成27年3月31日報告受理分 123件

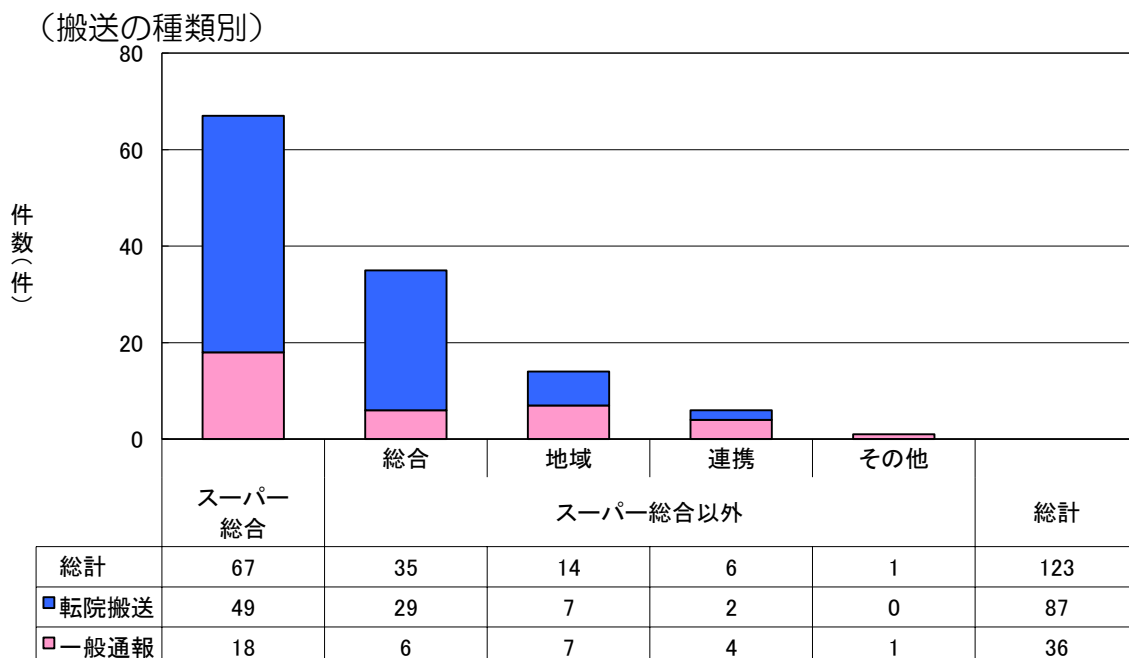
1 搬送の種類

- 一般通報が36件(29%)、転院搬送が87件(71%)となっている。
- 一般通報、転院搬送とも約9割が直近かつ当番病院又は直近病院に搬送されている。
- ※ 当番病院：第一当番のスーパー総合周産期センター

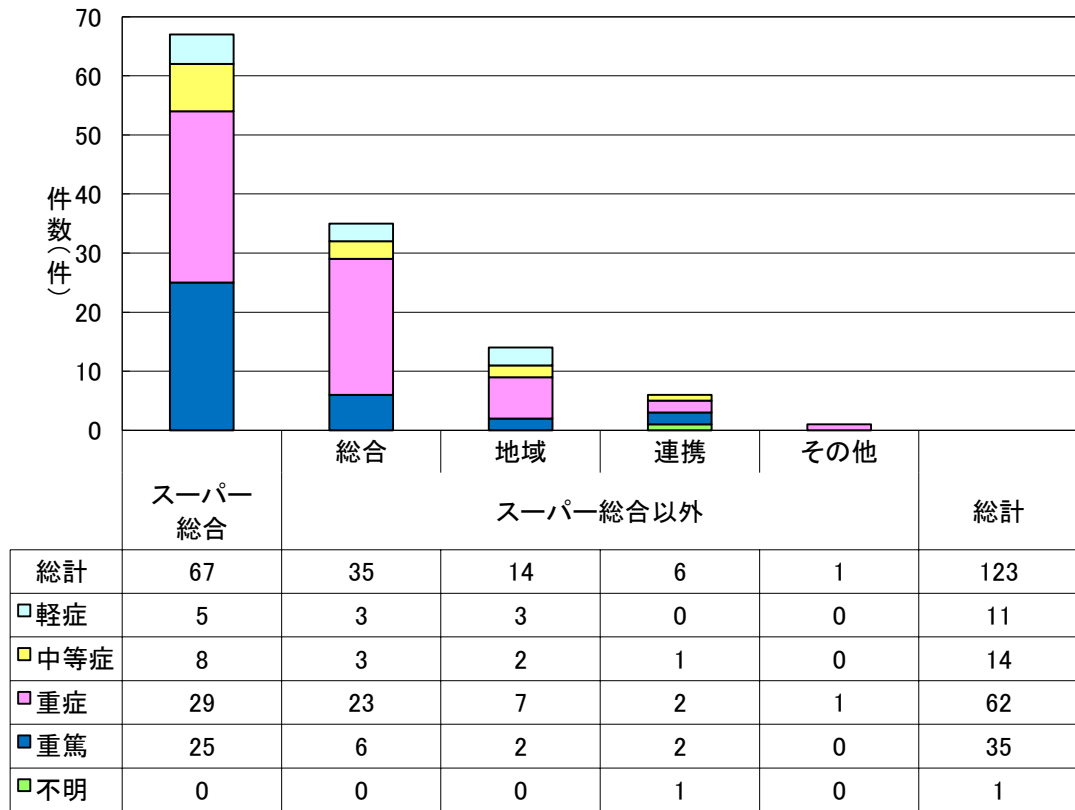


2 病院の種類

- スーパー総合周産期センター4病院には、転院搬送では49件、一般通報では18件、計67件(54.4%)が搬送された。
- スーパー総合周産期センターを含む総合周産期母子医療センターには、102件(82.9%)が搬送された。

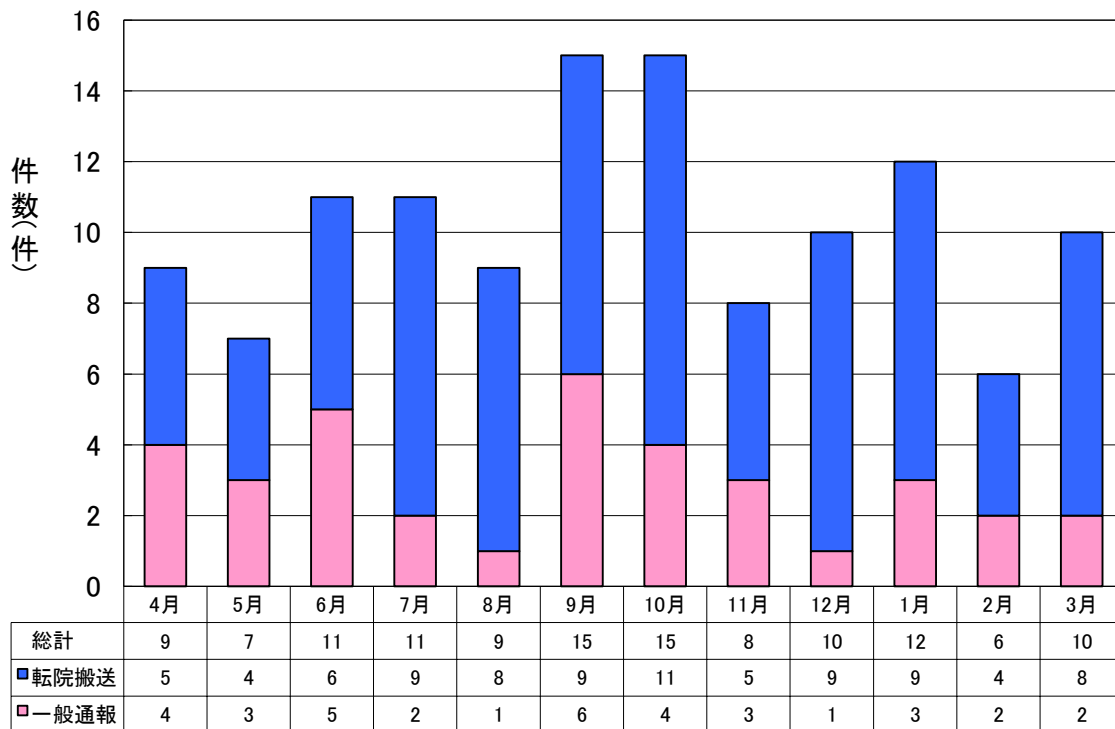


(重症度別)



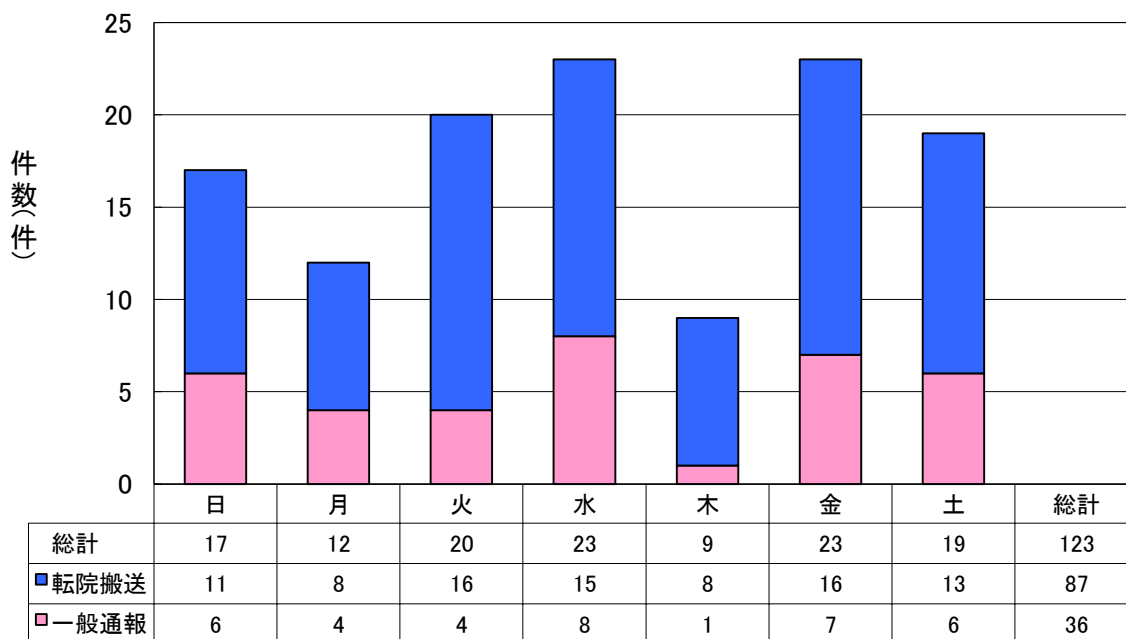
3 月別（搬送の種類）

- 発生件数は月平均10.3件で、9月、10月の15件は過去最多であった。
- どの月も転院搬送のほうが多かった。



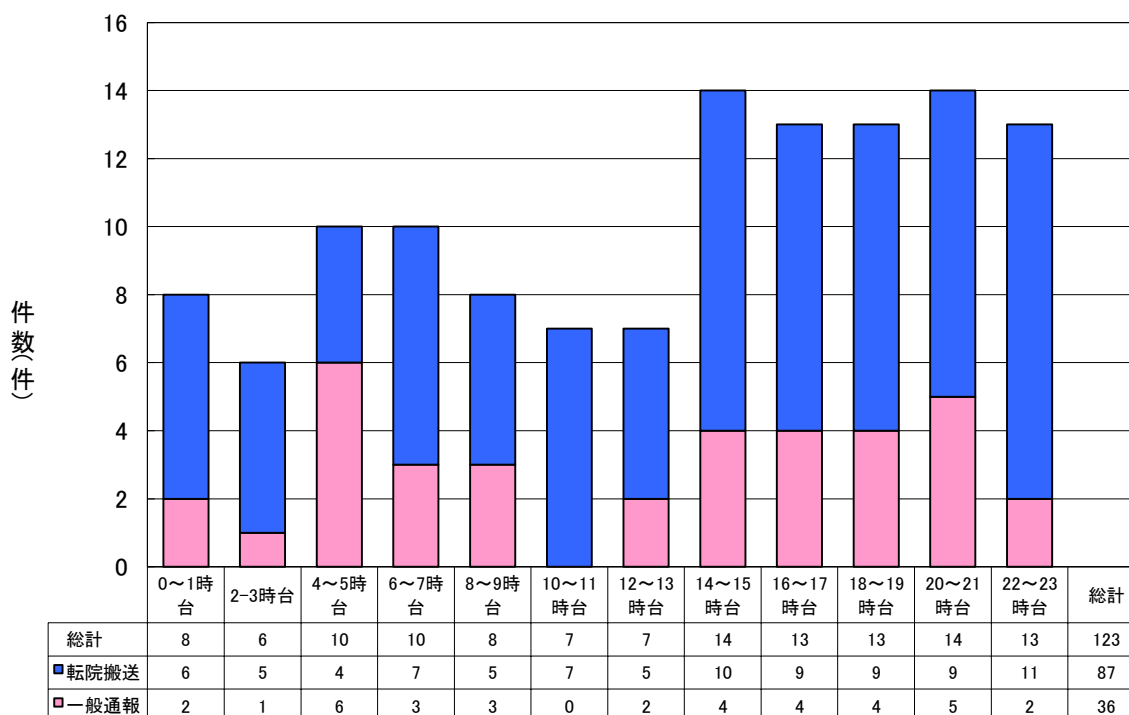
4 曜日別（搬送の種類）

○ 転院搬送は火曜日及び金曜日、水曜日、土曜日の順で多かった。



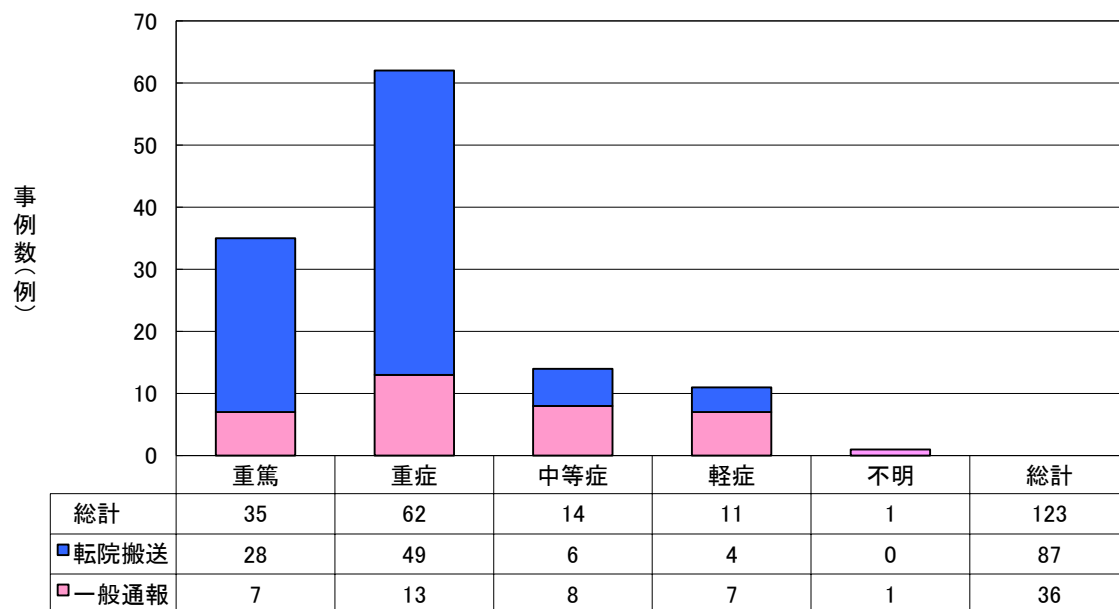
5 時間別

○ 覚知の時間でみると、転院搬送は14～15時台、22～23時台が多い。



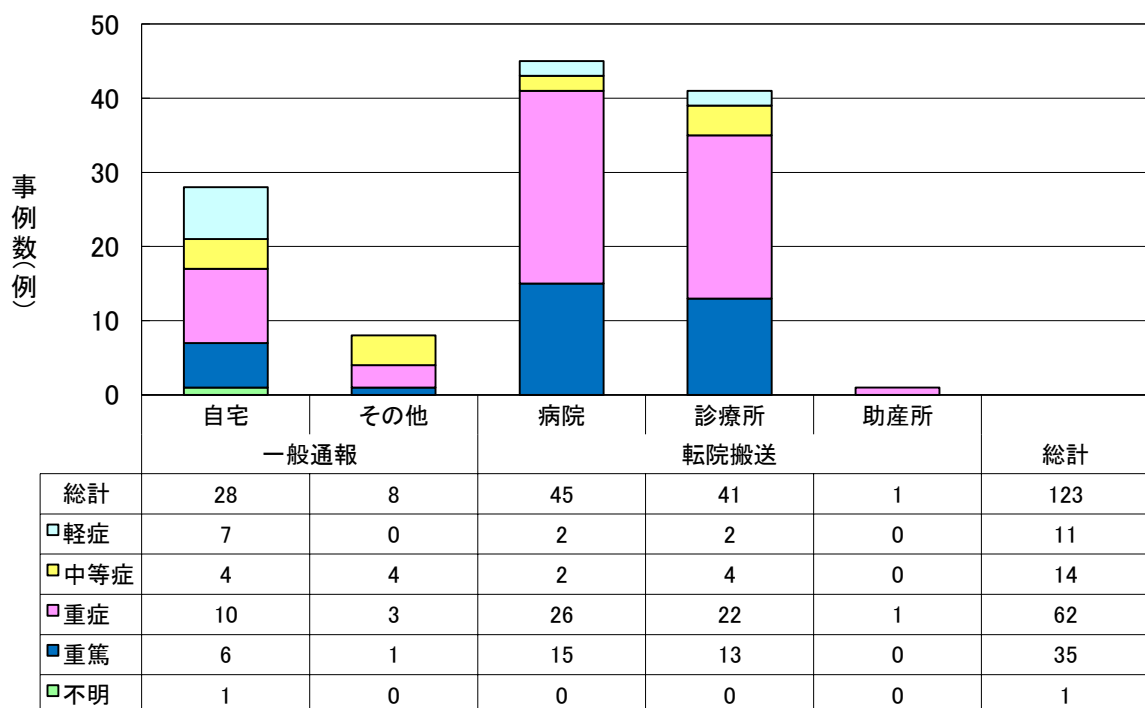
6 母の重症度（病院報告）

- 病院で確定診断が出てからの重症度では、重篤が35例(28%)、重症が62例(50%)であり、123例中97例(79%)がスーパー母体救命に相当すると考えられる。
- 重症以上では転院搬送の割合が高かった。



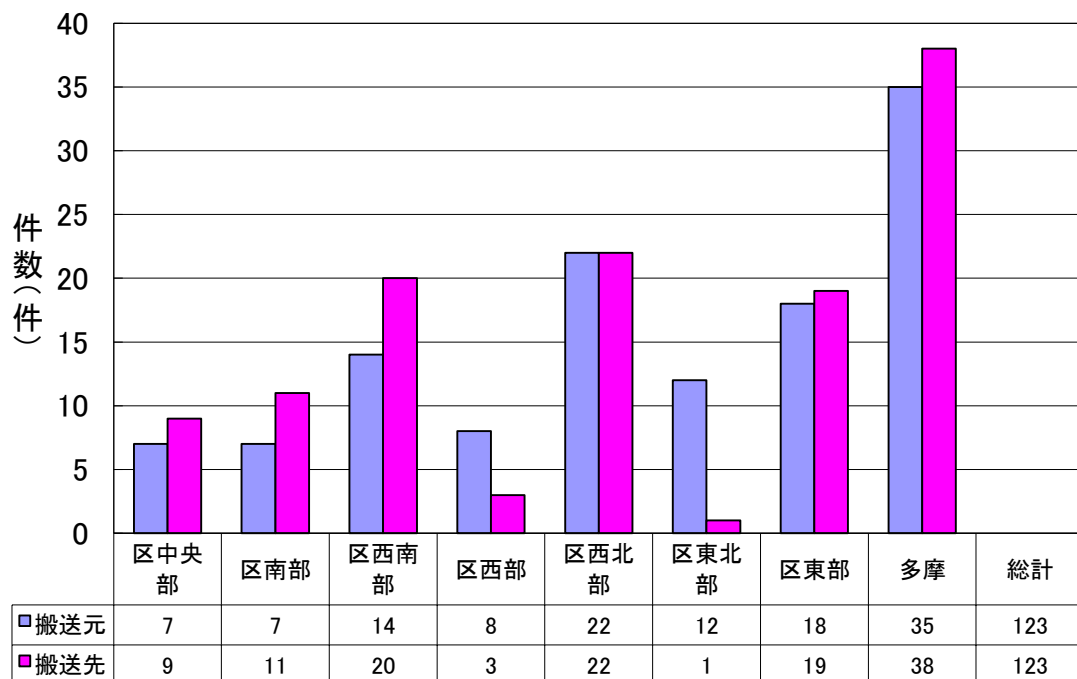
7 搬送元医療機関等

- 一般通報はほとんどが自宅からの搬送で、28件(78%)であった。
- 転院搬送は、病院からの搬送が45件(51.7%)、診療所からの搬送が41件(47.1%)でほぼ同じであった。



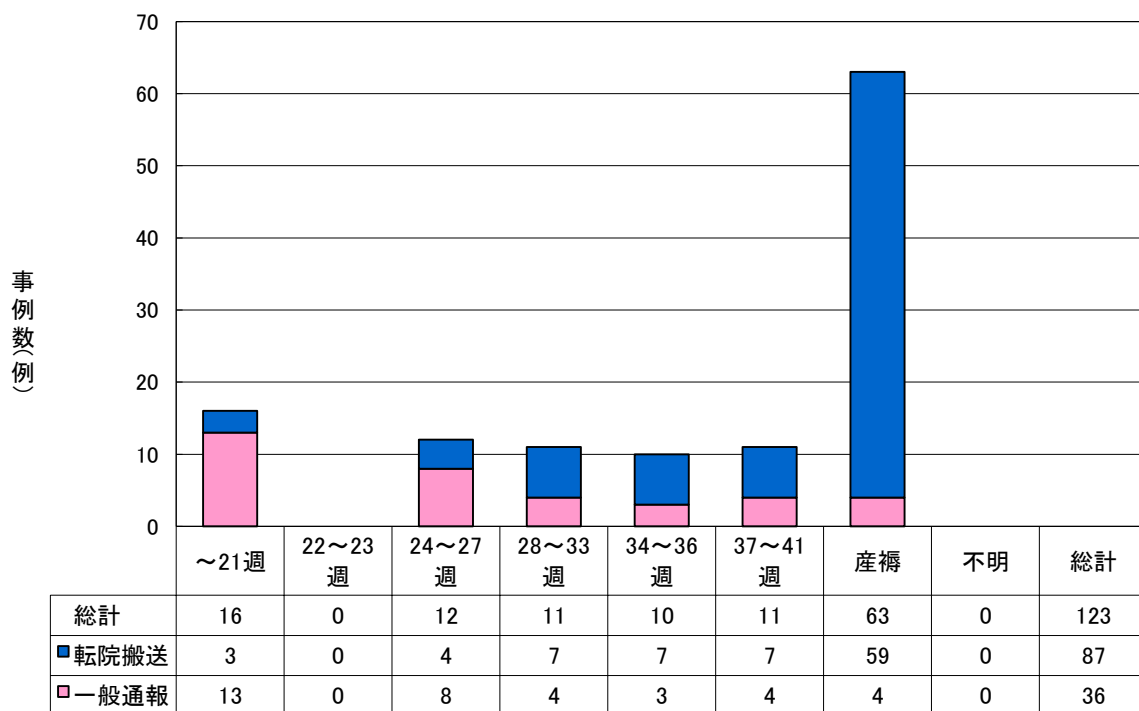
8 ブロック別搬送元及び搬送先

- 搬送元ブロックは、多摩、区西北部、区東部が多い。
- 受入となる搬送先ブロックは、多摩、区西北部、区西南部が多い。



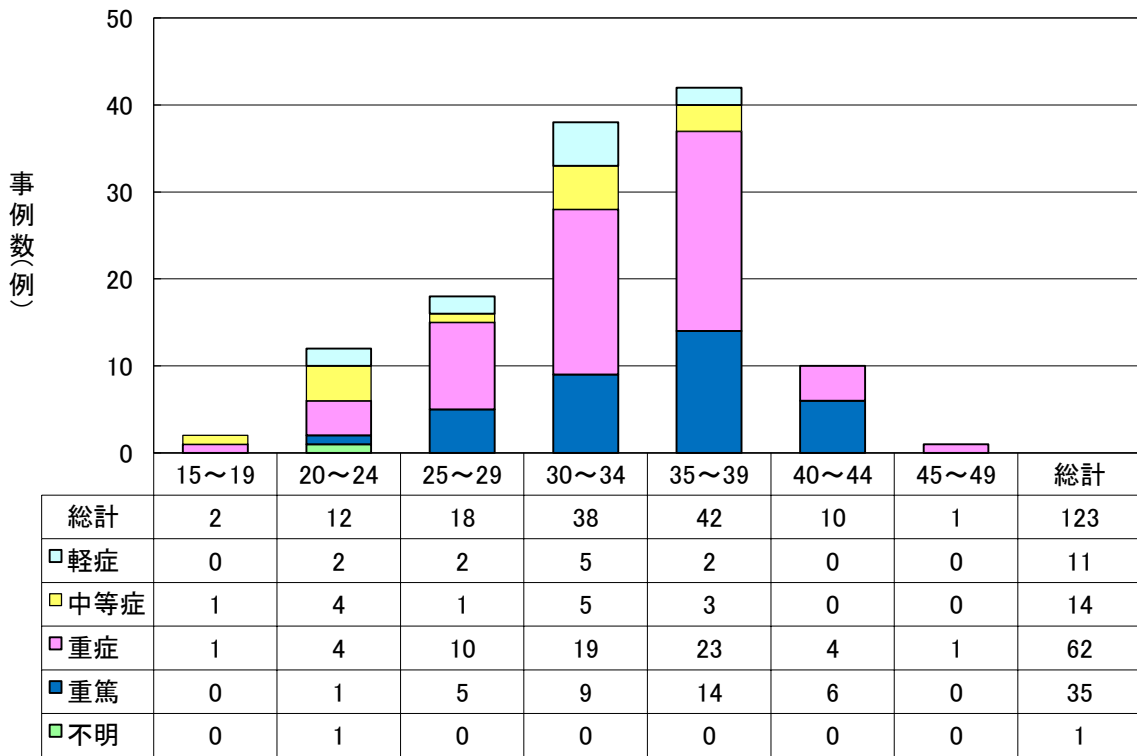
9 週数

- 産褥が63例(52%)で最も多かった。
- 21週以下は異所性妊娠や流産等であった。

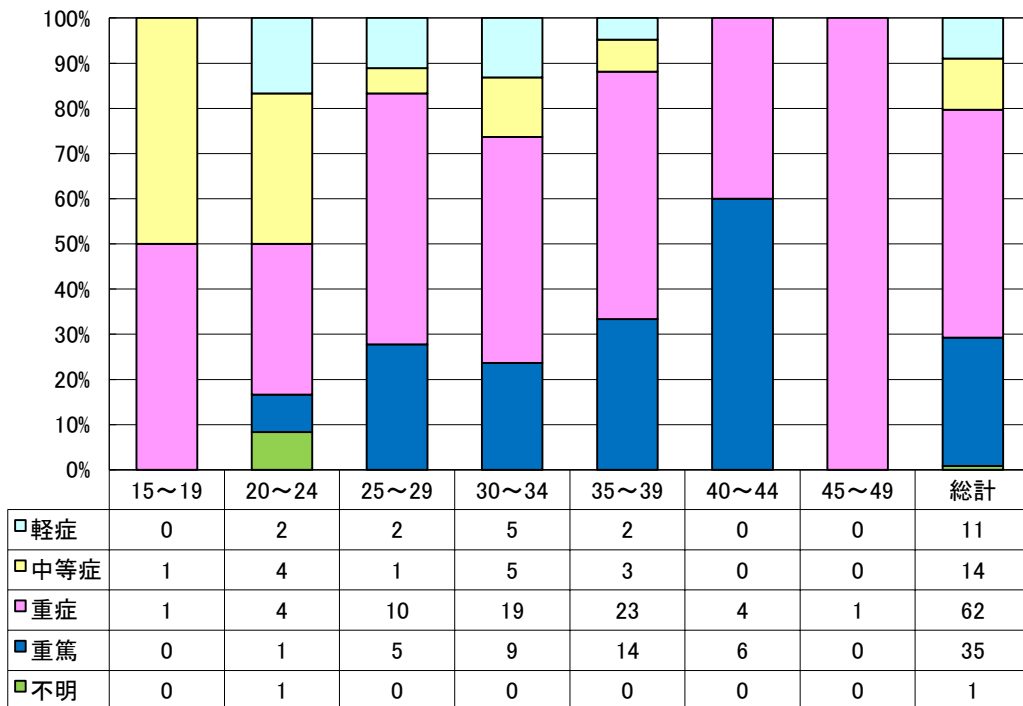


10 母の年齢（母の重症度別）

- 年齢別で見ると30代が80例（65%）で、発生件数が最も多い。
- 40代の重症度は、すべて重症又は重篤であった。

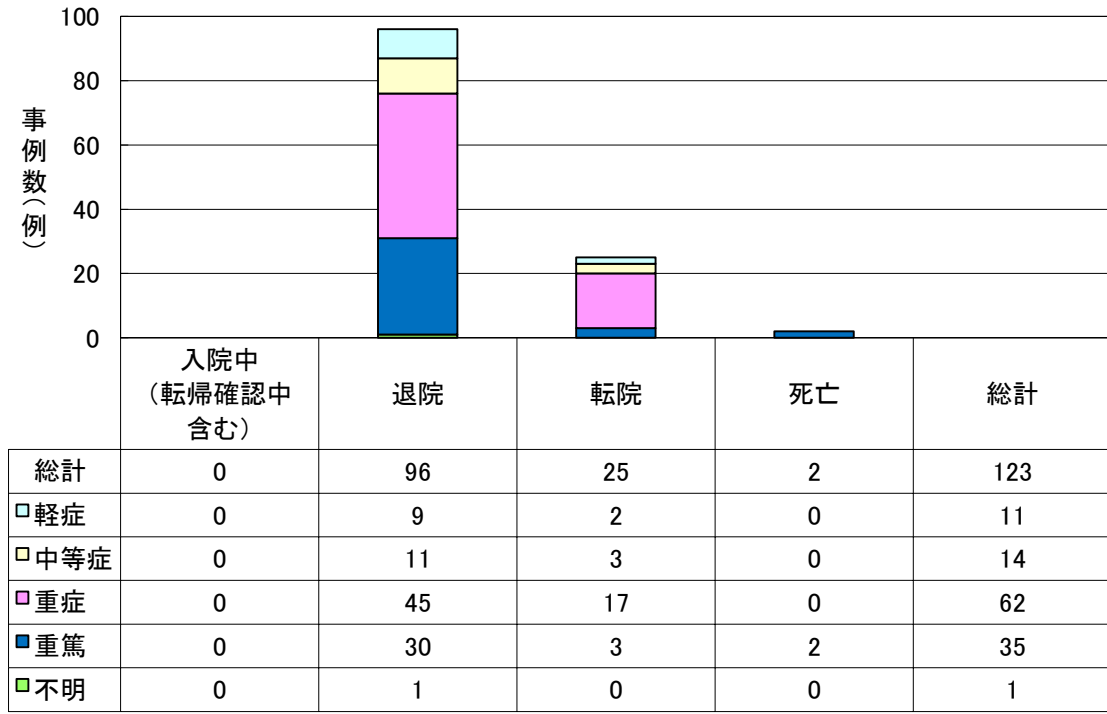


(割合)



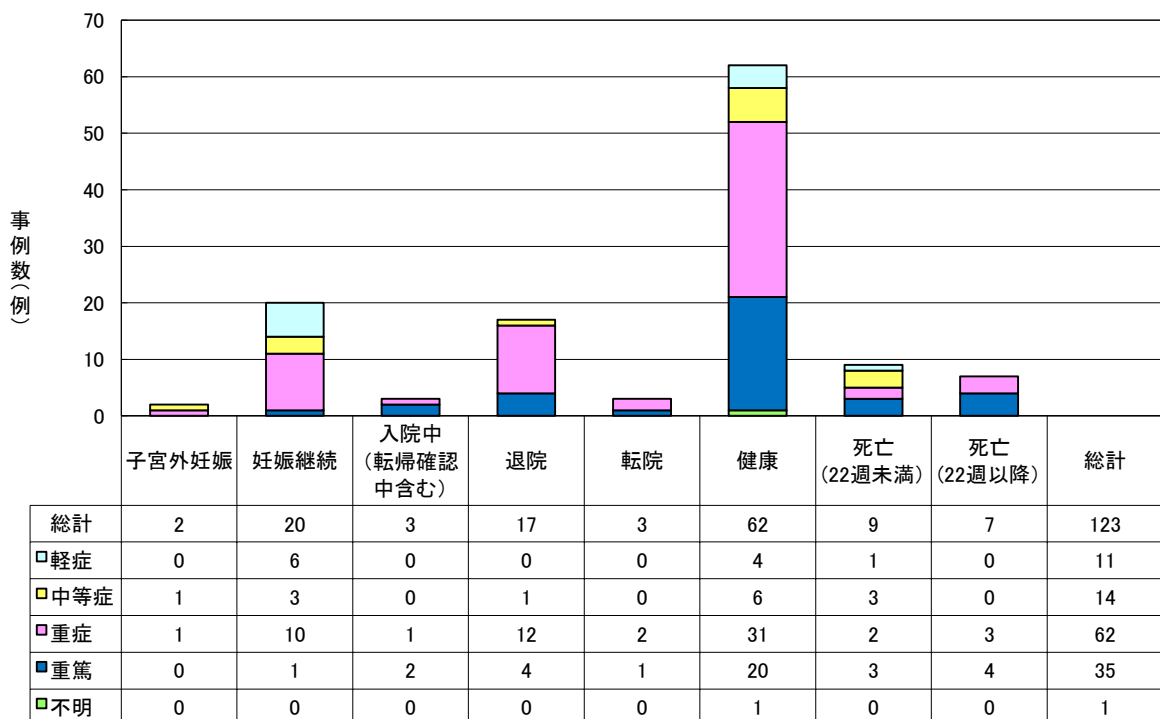
11 母の転帰（母の重症度別）

- 96例(78%)が退院し、25例(20%)が搬送元等に転院した。
- 2例(2%)が死亡で、重症度は重篤であった。



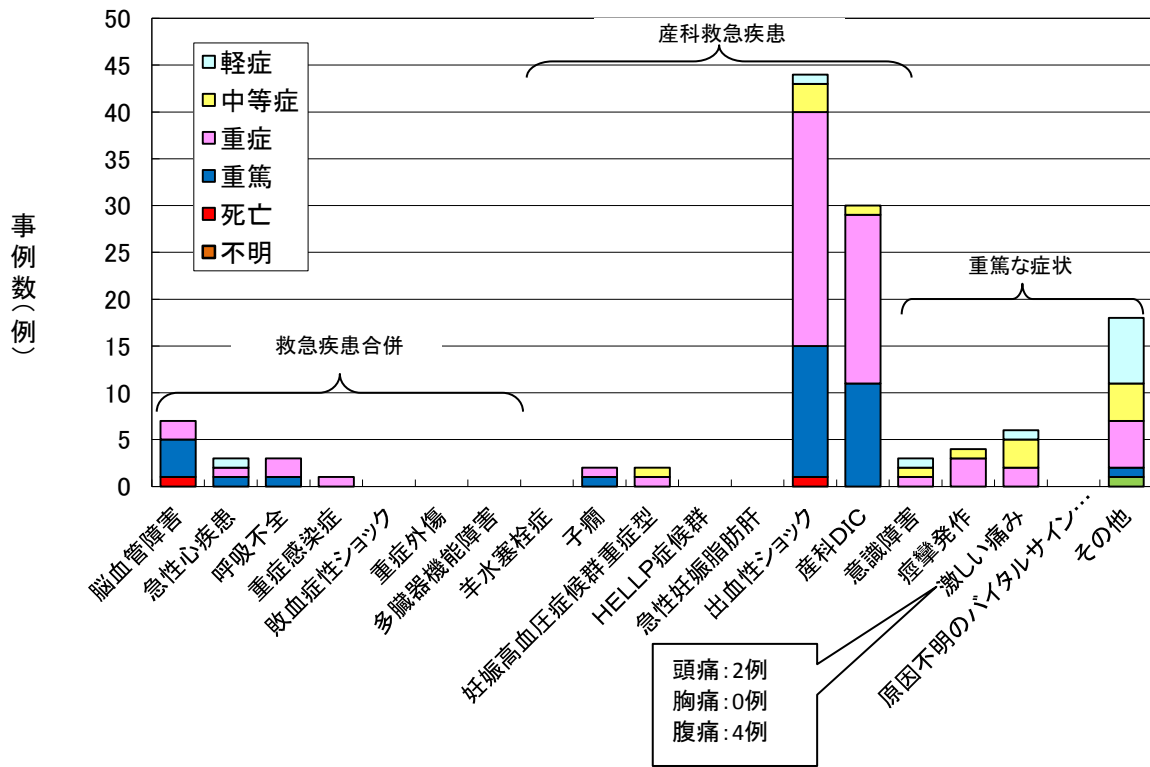
12 児の転帰（母の重症度別）

- 母が重篤又は重症であっても、児は退院・妊娠継続した事例が多い。
- 胎児死亡(22週以降)となった事例は、7例(6%)だった。



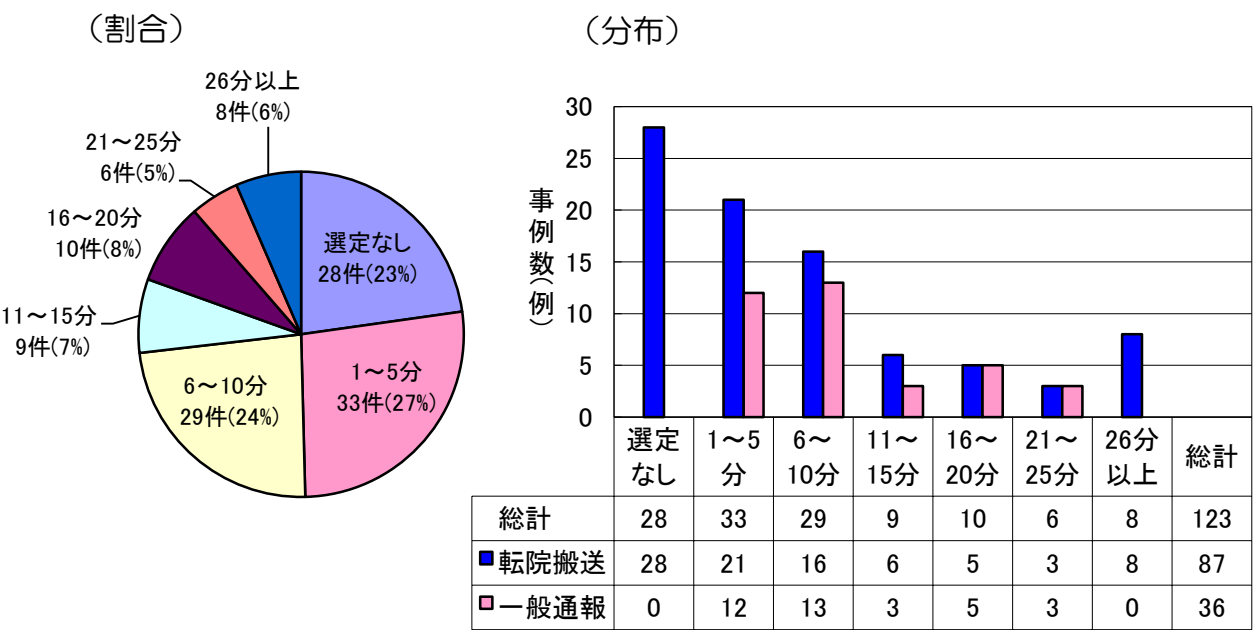
13 スーパー母体救命対象症例別疾患（診断後）

- 入院後診断された疾患名では、出血性ショック、産科DICが多い。
- 死亡事例2例の疾患名は、脳血管障害と出血性ショックだった。



14 病院選定時間（平均10.5分、中央値8.0分、「選定なし」含まず）

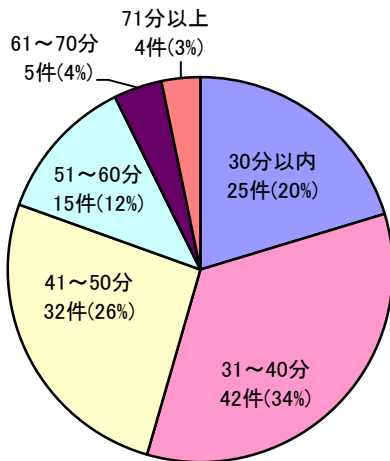
- 病院選定時間の多くは15分以内であった。すでに搬送先が決定していた事例を除くと、選定に要した時間は、平均10.5分であった。
- ※ 選定なし：搬送元で既に搬送先を確保済みの場合



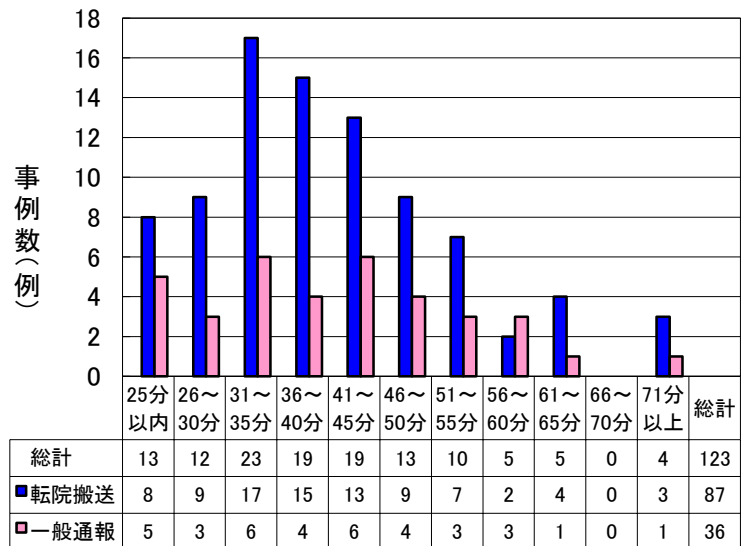
15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均41.3分、中央値39.0分)

- 覚知から病着までの時間の多くは50分以内であった。
- 60分を超えるものは9件(73.1%)であった。

(割合)



(分布)



16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間

- 転院搬送は、一般通報に比べ、現場に到着してから出発するまでの時間が短い傾向にある。
- 平成26年度は、転院搬送と一般通報の覚知から病着までの時間がほぼ同じであった。
- 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては病院決定まで平均11分程度となっている。

